

2015.6.1 第1161号
ISSN 0913-0217

発行人／長瀬清
発行所／北海道医師会
〒060-8627
札幌市中央区大通西6丁目
TEL(011)231-1432
FAX(011)221-5070

北海道医報

2015
6
月号



北海道 美の遺産

北岡 文雄

漁村の午後

北海道立近代美術館 所蔵

CONTENTS

北海道医報
平成27年6月1日 第1161号

| | | |
|---|---|----|
| 指標／地域枠医師の配置等の考え方について | 小熊 豊 | 3 |
| 医の倫理綱領 | | 5 |
| 北海道医師会公示・告示 | | 6 |
| 熊熊通信／北海道医師会 担当部長からの各部紹介 | | 8 |
| 生涯教育シリーズXXI／非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)診療の現況 | 大竹 孝明 | 10 |
| 生涯教育シリーズXXI／肝細胞癌に対する内科治療の現況と進歩 | 辻 邦彦 | 13 |
| 報告／平成26年度北海道有床診療所協議会研修会 | 沖 一郎 | 16 |
| 報告／医師の就労環境づくりを支援する | | |
| 事業周知のための臨床研修指定病院訪問 | 藤井 美穂 | 22 |
| 都市医師会だより／平成26年度 札幌市医師会医政講演会 | 松村 茂樹 | 26 |
| 第95回北海道医学大会 演題募集、総会ご案内 | | 28 |
| 税務相談室／持分なし医療法人への移行について(その2) | 中村 孝一 | 30 |
| 最新・医事紛争Q & A／ドクハラ | 黒木 俊郎、武市 尚子 | 32 |
| 会員のひろば | 久我 高志、安藤 慎吾、坂田 裕里、越 和子 大平 整爾、安田 一恵、足立 智昭、小窪 正樹 土肥 修司、小林 博、菊地 浩吉、浅井 康文 | |
| ポラリスを仰ぐ北の大地から | 秀毛 寛己、皆川 幸範 | 44 |
| 大通公園を望む窓辺から | 笹本 洋一、千葉 茂 | 45 |
| 医学会・医学講演会等 開催情報 | | 46 |
| 中央46 道南51 後志52 日胆52 空知53 道北55 北見57 道東58 | | |
| その他開催情報 | | 60 |
| 日医認定産業医制度研修会開催一覧 | | 61 |
| 計報 | | 62 |
| 道医の動き | | 62 |
| 新規指定医療機関 | | 64 |
| 会議室／第1・2回常任理事会、第1回理事会 | | 66 |
| 売貸医院・医師招聘情報 | | 74 |
| 道医師国保の貢 | | 78 |
| 季節風／子どもの日の公園風景 | 藤井 美穂 | 84 |

お知らせ

平成27年春の叙勲受章者⑨／「北海道がん対策基金」がスタート⑪

－生命保険「団体扱い」のお奨め－⑫

病気が原因となる交通事故の防止のためのご協力依頼について(お願い)⑬

日本医師会作成『心肺蘇生法CAB+Dカード』について⑭

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について⑮

女性医師等支援事業を推進しています。⑯／北海道医師会 育児サポート事業のご案内⑰

北海道医報へのご投稿等について⑯／グループ保険のご案内⑰

北海道医師会会員数 8,186名 (+20) うち日本医師会会員数 5,800名 (+6)

A 2,481名 (-4) B2 4,491名 (+22) C2 155名 (±0)

B1 592名 (+6) C1 109名 (-3) C3 358名 (-1)

平成27年4月30日現在 () 内前月比

作品紹介

きたおか ふみお
北岡 文雄 漁村の午後

1918(大正7)年～2007(平成19)年

東京都生まれ。

1966(昭和41)年の作品。木版・紙(53.0×84.0cm)。

東京美術学校在学中に平塚運一と出会い、木版画を学ぶ。

大きな転機になったのは、1955年のフランス留学である。パリの美術学校「エコール・デ・ボザール」で自然と人間の尊厳を強く意識し、写実表現への歩みを確信した。

パリから帰国後は、妻の実家にある札幌に滞在。「北方の

北海道の遺産

写真・資料提供：北海道立近代美術館
(札幌市中央区北1条西17丁目 011-644-6881)

魅力は、厳しい冬と対照的な春や夏を迎える開放感に満ちた喜びにある。「札幌の女性と結ばれて、東京生まれの私にとって、札幌は第二の故郷となった」と、本道との深いゆかりを感じながら、北の風土をモチーフに多くの作品を残した。

1964年に渡米し、ミネソタ州で木版画とデッサンを指導。この頃から、写実を基礎とした風景版画の制作をはじめ、以後30年以上にわたる作風を確立した。

画面奥に見える、色鮮やかな海が目を引く。木造の壁や藁を敷いた地面など、細部にわたるこまやかな描写が、自然とともに暮らす人々の風土を感じさせる。